

| | | | | | | | |
|--------------------|--|--|----|---------------|--------|------|----|
| 科目名 Course Name | ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ Social Work Theory and Methods II | | | ナンバリング No. | I2-008 | | |
| 年次 | 1年 | 期別 | 後期 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 |
| 担当者氏名 | 大熊信成 | | | | | | |
| 連絡方法 | C-ラーニングで対応。または福祉棟 3F 研究室。オフィスアワーは授業担当時間以外。 | | | | | | |
| 必修/選択 | 選択(社会福祉士国家試験受験資格取得必修) | | | | | | |
| 関連 DP | D2、DP3、DP4 | | | | | | |
| 授業の概要と到達目標 | <p>「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」で学んだ基礎知識をもとに、より実践的な知識と技術について理解を深めていく。</p> <p>①相談援助専門職として、より具体的な知識及び技術を学び、実践力を身につけ、説明することができるようにする。</p> <p>②コミュニティワークの概念とその展開について例証することができるようにする。</p> <p>③ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて述べるができるようにする。</p> <p>③ソーシャルワークの理論と方法についてマスターし、社会福祉士国家試験に合格できるレベルの知識と技術を修得することができるようにする。</p> | | | | | | |
| 授業の方法 | 基本的に講義形式で行うが、リアクションペーパーを実施し、グループ討議での振り返りを行う等アクティブラーニングの技法を取り入れる。また必要に応じて小テストを実施するとともに社会福祉国家試験対策も行い、知識の定着を図る。 | | | | | | |
| 学習成果 | L01 | | | | | | |
| | L02 | 社会福祉に関するソーシャルワークの専門職としての知識および技術を学び、具体的かつ実践的に創造でき、総合的・客観的に対応できる能力と洞察力を備えることができる。 | | | | | |
| | L03 | ソーシャルワーカーとして総合的・客観的に対応できる能力と洞察力を養えることができる。特にⅡではソーシャルワーカーとして即戦力となり得る知識と技術について修得できる。 | | | | | |
| | L04 | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 毎回の授業でリアクションペーパーを実施する。リアクションペーパーは振り返りを行い全員でシェアをする。また試験対策を行い、授業内で解答・解説を行う。 | | | | | | |
| 教科書/参考図書 | 『ソーシャルワークの理論と方法』弘文堂 他 授業中に指示し、資料を配布する。 | | | | | | |
| 履修上の留意点やルール等 | 一部視聴覚教材を使用し、内容をレポートで確認する。目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにすること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。原則、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」だけの履修は認められない。「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」を履修しておくこと。事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 180 分とする。 | | | | | | |
| 担当教員の実務経験 | | | | | | | |

| 成績評価の方法と基準 | | | | | |
|------------|--|---------|-----|-----|-----|
| 評価の領域 | 評価基準 | 学習成果の割合 | | | |
| | | L01 | L02 | L03 | L04 |
| 授業参加態度 | 授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。これらを総合的に判断する。 | | 20 | | |
| レポート/作品 | 提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価である S は意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。 | | 20 | | |
| 発表 | | | | | |
| 小テスト | | | | | |
| 試験 | 論述、選択記述式の定期試験を行い、評価する。論述は根拠(エビデンス)に基づき自分の言葉で述べられていること。 | | | 60 | |

| | | | | |
|-----|--|--|----|----|
| その他 | | | | |
| 合 計 | | | 40 | 60 |

| 回数 | | 授業計画 |
|----|---------|--|
| 1 | 授業内容 | ガイダンス(授業のねらいと進め方・成績評価の方法・授業中の留意点など) ソーシャルワークの記録① 記録の意義と目的 |
| | 事前・事後学習 | ソーシャルワークの記録とはどのようなものなのかについて各自調べておくこと。 |
| 2 | 授業内容 | ソーシャルワークの記録② 記録の方法と実際 |
| | 事前・事後学習 | ソーシャルワークの記録についてテキストを参照してノートにまとめておくこと。 |
| 3 | 授業内容 | ケアマネジメント ケアマネジメントの原則 |
| | 事前・事後学習 | ケアマネジメントについてテキストを参照してノートにまとめておくこと。 |
| 4 | 授業内容 | ケアマネジメント ケアマネジメントの意義と方法 |
| | 事前・事後学習 | ケアマネジメントについてテキストを参照してノートにまとめておくこと。 |
| 5 | 授業内容 | 集団を活用した支援とは |
| | 事前・事後学習 | 集団を活用した支援についてテキストを参照してノートにまとめておくこと。 |
| 6 | 授業内容 | グループワークの意義と目的 |
| | 事前・事後学習 | グループワークについてテキストを参照してノートにまとめておくこと。 |
| 7 | 授業内容 | グループワークの原則、展開過程 |
| | 事前・事後学習 | グループワークについてテキストを参照してノートにまとめておくこと。 |
| 8 | 授業内容 | セルフヘルプグループ |
| | 事前・事後学習 | セルフヘルプグループについてテキストを参照してノートにまとめておくこと。 |
| 9 | 授業内容 | コミュニティワーク コミュニティワークの意義 |
| | 事前・事後学習 | コミュニティワークの意義についてテキストを参照してノートにまとめておくこと。 |
| 10 | 授業内容 | コミュニティワーク 地域アセスメント、地域課題の発見・認識 |
| | 事前・事後学習 | コミュニティワークの展開についてテキストを参照してノートにまとめておくこと。 |
| 11 | 授業内容 | コミュニティワーク コミュニティワークの展開 |
| | 事前・事後学習 | コミュニティワークの展開についてテキストを参照してノートにまとめておくこと。 |
| 12 | 授業内容 | スーパービジョンの意義、目的、方法 |
| | 事前・事後学習 | スーパービジョンとは レポート「スーパービジョンの機能について」提出は第 13 回目の授業日 |
| 13 | 授業内容 | コンサルテーションの意義、目的、方法 |
| | 事前・事後学習 | コンサルテーションについてテキストを参照してノートにまとめておくこと。 |
| 14 | 授業内容 | ソーシャルワークの実際 社会的排除の事例 |
| | 事前・事後学習 | 事例を分析して各自ノートにまとめておくこと。 |
| 15 | 授業内容 | ソーシャルワークの実際 DV、虐待の事例 授業のまとめ |
| | 事前・事後学習 | 事例を分析して各自ノートにまとめておくこと。試験対策を行うこと。 |